



## ロータリー財団資金モデルへの変更

2021 年 2 月 7 日

ロータリアンの皆さま

私たちは今、世界的な保健の危機、自然災害、経済の混迷を同時に経験するという未曾有の混乱の中にあります。そのような中でもロータリーの活動は継続され、クラブ、ロータリアン、ローターアクトーによる数々の奉仕活動が行われています。

ロータリー財団は、地域社会における会員の取り組みを支援できることを誇りとしています。2020 年 3 月以来、財団は、新型コロナウイルスと関連するグローバル補助金と災害救援補助金のプロジェクトに 3200 万ドルを授与してきました。2019-20 年度に授与したグローバル補助金は 1,359 件、総額 9560 万ドルに上ります。グローバル補助金が導入された 2013-14 年度に 868 件、4730 万ドルだったのと比べると、非常に大きな成長と言えます。財団の補助金は、ロータリーのインパクトの大きさを実証する世界中のプロジェクトを支援しています。

グローバル補助金の需要が高まり、年次基金への寄付のペースを大きく上回っていることから、各ロータリー年度末のずっと前に国際財団活動資金 (WF) が枯渇し、グローバル補助金申請のすべてに補助金を授与できない状況となっています。

今年度には、できるだけ多くのグローバル補助金を授与するために複数の経費削減策が取られました。例えば、管理委員会と理事会は最近、財団の運営準備金と国際ロータリーの予算剰余から 1500 万ドルを国際財団活動資金 (WF) に充てました。合計で追加 2000 万ドル近くが今年度に利用可能となりましたが、残念なことに、それでも今後提出される申請に応えるために十分ではありません。

グローバル補助金の需要の高まりから、今年度に（そしておそらく来年度も）資金不足が生じることが予想されます。

このため財団管理委員会は、より多くのグローバル補助金を授与するため、方針への変更を承認しました（2021 年 7 月 1 日より有効）。

### **1.ポリオプラスへの地区財団活動資金 (DDF) の寄贈に対する上乗せが 50%に**

ポリオプラスへの DDF の寄贈に対しては、国際財団活動資金 (WF) より、100%ではなく、50%が上乗せされることとなり、その後でビル & メリンダ・ゲイツ財団からの上乗せが行われま

す。ロータリーがポリオ根絶のために集める資金に対し、今後もゲイツ財団から2倍額が上乗せされます(上乗せの対象となるロータリーからの金額は毎年5000万ドルまで)。

ポリオ根絶のために年間5000万ドルの寄付を集めつづける一方で、クラブ、地域社会、政府関係者が協力して引き続きポリオ根絶を優先事項とし、認識を高めていくことが不可欠です。

## **2.グローバル補助金のためのDDFに対するWFからの上乗せを、100%から80%に引き下げ**

グローバル補助金のためのDDFに対しては、WFからの上乗せが100%から80%に引き下げられます。2020-21年度には、WFが枯渇しない限り、5月31日までに提出され、6月30日までに承認された申請書に対し、引き続きDDFに100%が上乗せされます。今年度に承認されなかった申請書は、調達資金に調整を加えた上で再提出する必要があります。

## **3.年次基金(シェア)寄付の5%が、運営費に充てるためにWFとDDFから均等に引き出される**

現在、年次基金(シェア)への寄付は、WFとDDFに均等に二分され、寄付額の5%が運営費としてWFのみから引き出されています。

7月1日より、年次基金(シェア)へのすべての寄付は、運営費として5%が引き出されたあとで、WFとDDFに均等に二分されることとなります。例えば、寄付額が100ドルである場合、運営費5%がまず引き出され、その後で残りの95%がDDFとWFに均等に二分されます(DDFとWFにそれぞれ47.50ドルずつ)。

## **4.未使用DDFを繰越しできるのは5年間のみとなる。各年度末に5年を超えて未使用であるDDFは、地区の裁量で、ポリオプラス、重点分野のための恒久基金、恒久基金(ロータリー平和センターを含む)、災害救援基金、WFのいずれかに充てることができる。この方針の下、未使用DDFがほかの基金に最初に充てられるのは2026年7月1日となる。**

年次基金への寄付者は、寄付が地域社会での奉仕活動のために迅速に活用されると期待して寄付をします。しかし、毎年、未使用のまま多額のDDFが翌年に繰り越されます。2020年7月1日には、4880万ドルが現年度に繰り越されました。繰り越される資金を活用して大きなインパクトをもたらしましょう。

2026年7月1日より、上記の通り、地区は、2020-21年度から未使用のまま繰り越されているDDFをどう活用するかを選ぶことができます。地区が繰り越しDDFの指定先を財団に通知しない場合、このDDFは自動的にWFに充てられます。

財団管理委員会は、本件について長期間にわたって協議を重ね、慎重な検討と計画の結果として方針への変更を行いました。プログラムの需要に応じて資金のバランスを図ることは、どの

非営利団体にとっても課題であり、状況の変化に対応するには時に調整や難しい決断が必要とされます。

今回の変更についてさらに詳細にご説明するため、今後数週間以内にウェビナーを開催する予定となっております。このウェビナーについては、別の E メールでご案内いたします。それまでの間、本件について差し迫った質問等ありましたら、[rotarysupportcenter@rotary.org](mailto:rotarysupportcenter@rotary.org) にご連絡ください。

充実したプログラムを維持し、成長させることができるかどうかは、今後も会員からの年次基金(シェア)への寛大なご寄付にかかっています。補助金と財団プログラムに資金を提供していくために、今後も慎重な資金管理と投資に努めてまいります。

ご協力とご理解を何とぞお願い申し上げます。

心を入れて

2020-21 年度ロータリー財団管理委員長

K.R. ラビンドラ